

WACATE マガジン Magazine Vol.9

＊ ご挨拶 ＊

こんにちは。WACATE-Magazine 編集部です♪
もうひとつの WACATE 2009 夏が無事終了しました。



「Software Testing ManiaX vol.1」を
入手できた方はいらっしゃいますか？
入手出来なかった方は今のところ再頒布予定が無いので、
入手出来た方のご意見などをお待ちください^^；

沢山のご来場、誠にありがとうございました★
予想外の大盛況に
サークル WACATE も大盛り上がりでした★

さてさて、今年はちょっと涼しい夏ですね。
花火はご覧になりましたか？

最近では花火の打ち上げタイミングもコンピュータ制御になっているそうですね。

なかなかシビアなシステムなんだろうなあとかいろいろ考えてしまいますw

何せ、お客様に喜んでもらうための一発勝負ですし…。やっぱりテストは必要なんですよ。

さあ、今回の Magazine は JaSST' 09 Kansai ともうひとつの夏のレポートを、どーんと打ち上げちゃいます♪

＊vol.9のお品書き＊

- p.01 ご挨拶/お品書き/WACATE TOPICS
- p.02 【特集 1】 JaSST' 09 Kansai Report!!
- p.08 【特集 2】 もうひとつの WACATE 2009 夏～僕たちがつくったもの～
- p.13 【告知】 WACATE ShortShort vol.7 告知!
- p.14 【リレーコラム】 せんばいにきく。
- p.15 【リレーコラム】 ワカテにきく。
- p.16 【トピックス】 SoftwareTestTopics
- p.17 【連載】 池田暁の「ミュージカルに恋して」
- p.19 【コラム】 WACATE 2009 夏…その裏側で…
- p.21 【不定期連載】 コヤマンの「補給戦線異状なし!」
- p.22 【リレーコラム】 WACATE-Blog 出張所
- p.23 【連載】 源太郎の「開運ソフトウェアテスト占い」
- p.24 お知らせ/編集後記/おくづけ

＊WACATE TOPICS＊

- [News] 8/16[sun]に、コミックマーケットにサークル WACATE が出展! Software Testing ManiaX を頒布!
- [News] 10/2[fri]に、[JaSST' 09 Hokkaido](#) で WACATE が LT するかも!?
- [News] WACATE 2009 冬の日程が 12/13[sat]～12/14[sun]に決定!!

JaSST'09 Kansai Report!!

四国に続き7月31日に **JaSST'09 Kansai** がクリエイターズプラザ(大阪府 東大阪市)にて開催されました。今回も私(ばんばん)は東京からはるばる大阪まで旅してきましたw

大阪を車で走るのは怖いしw一番安い方法をとるため、青春18きっぷでのんびり旅を楽しむことにしました。ちょこちょこ途中下車してその土地の味を楽しむのもまた楽しいものです♪

今回は**関西、東海地区のWACATEファン**も参加されていて、レポートをお願いしたところ快く引き受けていただきました☆

ということで今回のレポートは **WACATEファンのみ** **なさんとの共同執筆**でお送りいたします^^

■開催直前とオープニング

朝9時半から受け付け開始。受付には東海からの手伝いの方や森崎先生など、WACATEでお目にかかった方々の姿がありました。

10分前には会場の2/3ほど埋まっています、すでに後ろしか席があいていなかったです;(実は10分前のこのこ登場した私A^^);熱心な方が多いですね~!!

そして10時、共同実行委員長、武田学氏のオープニングご挨拶でJaSST'09Kansaiがスタートしました!

■基調講演

「品質検証、評価技術の勘所」

一奈良 隆正氏

◇セッション概要

今回は大きく3つのテーマについての話。

- ・レビュー
- ・テスト
- ・測定

ソフトウェア品質には2つの側面(狭義と広義)があり、両面から考える必要がある。

信頼性向上への配慮として

- ・構造設計とそれに基づくレビュー
- ・システムチェックなテスト
- ・品質や開発工程のビジュアル化

などが必要。今回はここに照準をあてた話。

◇講演メモ

検証手段としてのレビューの位置付けについて、(公式な)レビューは達成度を調べて審査し、監査は、プロセスが遵守されているかを調べる。この両方がキチンと働いていることが大事。

バグはつくられるもの(それは人間だから仕様がない)→どうやったらバグをつくりこまないようにできるか?が大事。また、早い時期に摘出する努力として、**経験を標準化する。**

バグはゼロにならない。品質リスクを最小に抑える努力、リスクの高いものから無くしていく**努力が大事。**

レビューの目的は、ただ「わいわいがやがや」やることではなく(そういうレビューもあるが)品質評価することが重要な目的。他にプロセス改善、OJTなどの目的がある。

デザインレビューは、場面場面(機能・構造・詳細の各取)を考えてやろう。

やみくもにやるのではなく、**過去のノウハウをレビューに活かす。**「飛行機は10年置きに落ちる」→痛みを忘れてしまうから事故につながる。失敗について「自分はそんなことはしない」という考えに陥ることがある。

レビューは一つのイベントとしてスケジュールに書くことが大事(突発的にやらない!)。「このへん」程度でよいので、イベントとしてスケジュールに挙げておく。

適切なメンバーの参画も重要。ここが一番うまくいっていないのではないかと?レビューに必要な人は体制表に書く!→実現するかはともかく、**希望を出す。**→駄目だという場合も、別の人を紹介してもらえたりするメリットがある。

レビューの事前準備も大事。いきなり資料が来ても無理。「このシステムはどういう目的でどういう風に利用されるのか?」いきなり仕様書を提示されてもわからない!!「なにものか?」を伝える資料が必要。

- ・ウォークスルーの大事なことは運営方法を公式レビューと同じように行うこと。非公式だからいい加減にやってよいわけではない!
- ・ピアレビューでは、間違いに対しどういプロセスを踏んだのか、何故そのように間違っただのか?を究明することが大事。
- ・ソフトウェアインスペクションの目的は合否判定とプロセス改善。得られた結果を公式に使う(フィードバックなど)。
- ・公式レビュー(節目レビュー)では、合否判定がセレモニー化しがち。免罪符のようになっている。「赤信号みんなで渡れば・・・」のような感覚があるのでは?
- ・コードインスペクションはマシンテストの代わりに「人間の頭でテスト」する。テスト戦略の一つだと思う。欠陥除去の効果が大きい。

テストによりバグが出ないとき、に**品質がいいの?を確認**することも大事。いい加減にテストしていたら×。テストをどうやったの?テストケースをどうやってつくったの?→それがよければとりあえずよしとする。

テストプロセスはあっても実行しなきゃいけない。どういう風に動き出す?いつ始める?といったテストコントロールが必要。テストアクティビティの**早期開始**(いかに担保するか)が課題。

テスト完了基準については(テスト終了基準の)目標に達しないこともあるが、そのときの理由をきっちり考える。もしまずかったら、次のプロセスでも(その問題は)出てくる。問題点について必ず理由を明確にし、次に活かすことが大事。

テスト項目についても、残った時になんで残っていつやるのか?をキチンと明確にする。

バグ修正も、あとから黙ってやるのではなく、リリース前に何故直せないのか?(優先する仕事があったからなのか?)を明確にする。

日本の強みは、「品質改善」の活動!

テストの技術について

- ・ブラックボックス「使う立場」ホワイトボックス「作る立場」
- ・同値分割を「きちんと」使っている人はそんなに多くない。(会場で訊いてみるとたいてい3割くらい)
- ・どこまでテストするの?も重要。すべてのパスを組み合わせればいいわけではない。if 文の数の累乗でパスが増える。

メトリクスについては時間の都合もあり、大事なことだけ解説。

- ・いろんなことをやったらそれは測定して評価しよう「測れないものは制御できない」(トム・デマルコ)
- ・測定をするためには準備がたくさん必要!(65 ページの図) こういうフレームワークがある。
- ・今は過去の積み上げがあるのでフレームワークを意識しないで測定してしまう。

測定したときの水準が無いから、測定値の意味が若い人にはわからない。

最後に、奈良さんからのメッセージ。

「ソフトウェアエンジニアは常にテストを意識し、テストを勉強することで、優秀なソフトウェア開発者になれる。」

◇セッション感想

奈良さんに当日お目にかかった時の一言「また来たの?!」・・・東京から四国と関西両方参加する人はめったにいないでしょうから、奈良さんでなくても驚きますよね。これはw

四国と両方聴いた方はいらっしゃったでしょうか?両方聴けて本当に良かったです。四国とは異なるお話も多く聴けました。また、四国でも話されていた標準化にはある程度の幅が必要という話も、今回は「道の幅を決める」(人間の創造性の幅を広げる)こと、という表現で話されていて、こちらの表現のほうが私は好きだなあと感じました。

基本なお話が多かったと思います。しかしながらその「基本」を「きちんとやる」ことは実際の業務では簡単ではなく、ついつい忘れがちになることも多い気がします。奈良さんのお話は若い世代には知恵の継承、ベテラン世代には思い返す機会、そんな目的を満たしていただけたと思います。(ぼんぼん)

■奈良高専セッション

「元気なら組み込みシステム技術者の養成」のご紹介
—土井 滋貴氏

◇セッション概要

奈良高専の地元奈良県を中心に、平成19年度から平成23年度までの5年間、組み込みシステム技術者の養成を行う。対象は社会人。ベーシックコース、アドバンスドコース、ペリフェラルズコースの3コースがある。また、技術教育だけでなく、現場に戻ってからの開発サポートも提供。

◇セッション感想

受講者の受講後の活躍まで考慮に入れている点は非常に素晴らしいと思います。

企業と学校が連携しあうことで「元気」が得られる。同じような取り組みが全国各地で行われていくことを願っています。

なお、9月11日(金)に、奈良女子大にて、[第5回 元気なら組み込みシステム・フォーラム](#)が開催されるそうです。(ぼんぼん)

■昼食タイム♪

昼食は参加者全員にお弁当が配布されました☆

昼食場所を探す手間が省け、参加者同士お話しする時間もたっぷりとれ、ゆっくり過ごせて非常に助かりました。

■テクニカルセッション

「テスト基礎力の向上・品質基礎力の向上」

昼食後、テクニカルセッションとして、4講演が行われました。

□2-1

テラリングしたパスアラウンドレビューによるレビュープロセス改善

—平野 誠太郎氏

◇セッション概要

レビュープロセスが無いレビューには欠陥検出が意識されていないため様々な問題が生じる。しかし新規プロセス導入もまた困難。最初の導入障壁を低くするために「既存の活動をもとに徐々に改善していく」方針でレビュー技法を評価し、パスアラウンドレビューをテラリングして適用してみることにした。

パスアラウンドレビューにありがちな

- ・レビューアに依頼しっぱなし
- ・レビューしっぱなし(回覧しっぱなし)
- ・修正チェックや完了チェックをしないままという問題点を改善するプロセスを工夫。レビューア選出後の「概要説明会」パスアラウンドレビュー後の「認識あわせ会」修正後の「検証・報告」を設け、プロセス改善担当者が開始～終了までを主導する。



◇セッション感想

「大したことはやっていない」しかし大事なことは実施できるように工夫されていて、パスアラウンドレビューに起こりがちな問題点をうまく改善していると思います。レビュー技法をうまく組み合わせしていくことの重要性が伝わりました。(ばんばん)

□2-2

保守開発型ソフトウェアを対象としたソフトウェアFMEAの試行

—山科隆伸氏

(山科隆伸氏が都合により来られなくなってしまったため、研究に関わっていらした森崎修司氏が代行講演。)

◇セッション概要

ソフトウェア規模の増大や機能追加による保守により信頼性確保が難しく、また、起こりがちなミスをチェックリスト化していくのには限界がある(チェックリストが爆発すれば当然コスト高になる)。これらの問題の解決方法に故障モード影響分析 FMEA の利用が考えられる。しかしソフトウェアへの FMEA 適用には実施コストや概念が通用しない場合への対処など課題がある。

現実的なコストでソフトウェアに適した FMEA を実施するために、

- ・故障モードの再利用によるトータルコスト削減
- ・構成要素を機能ではなく処理(イベント)とする
- ・ハードウェアでの故障モード「劣化/摩耗」を「考慮不足」とする

といったアプローチを設けた。

実施してみたところ、20件中、2つの不具合が故障モードにより未然に防げていたことを確認した。

◇セッション感想

会場でFMEAを知っていると答えたのは2割程度で、導入したことがあると答えたのは1割いくらかいかないか?程度でした。

懐中電灯を例にFMEAの解説をしてくださったのが、わかりやすかったと思います。

(ばんばん)

□2-3

組込ソフトウェア開発における不具合分析に基づくペアワイズテストの取組み

—菊池 光太郎氏

◇セッション概要

グリーディー法ペアワイズツールを使用したパイロットモデルでの取り組みの事例の紹介。

近年のソフトウェアの複雑化に伴うシステムテスト工数の増大化改善へのアプローチとして、ペアワイズ法に改良を加えたグリーディー法ペアワイズツールを作成する。

本ツールにて、現場に即した効率的・効果的なテストケースを作成することが可能になったが、使用に際して、因子・水準抽出の精査をしなければ、テストケースが増えるだけで、本来の目的を見失ってしまうことになるという問題がある為、**同時にテストプロセスの見直しも実施した。**

例えば、分析フェーズにおいては、テスト対象をバグビューと仕様ビューの2面から捉え、それぞれのビューに対して観点抽出し、テスト観点やテストケースの狙いを定かにする等、各フェーズ毎の目的、内容を明確にすることで、**次フェーズへの作業が流れやすくなるようにした。**

その結果、パイロットモデルで使用したところ、網羅率100%を実施するテストケースに対して、**約4割の工数でテストを実施することに成功した**とのこと。

◇セッション感想

このツールを使用して、テストケースが約60%削減したとのことだったのですが、それなりのバグも検出されているようでしたので、すごいなあ~と思いました。

しかしながら、この結果が出たのは、ツールを使用したこと以上に、じっくりと時間をかけてテスト分析した結果を、設計に生かし、良い因子・水準抽出が出来たからなんだろうと感じました。テスト対象を知ることが、よりよいテストの第1歩だと再認識しました。

(かわさき)

□2-4

KKD(勘、経験、度胸)も使おう。一歩進んだレビューになるために。~レビュー眼~
—一角 勝隆氏

◇セッション概要

「レビューアの“ひらめき”は何か」とノウハウの伝え方の考察。レビューでよく発生する問題指摘の後、**レビューする「眼」を養うヒント**をご紹介いただきました。

◇セッション内容と感想

1. 仕様書の「怪しいポイント」発見のコツ(観察からの的確な情報キャッチ/「かもしれない(=可能性)」の観点)

【感想】WACATE2009 夏で学んだ「仕様書は完全ではない」という言葉を思い出します。「かもしれない」を「まあいいか」と受け流しがちな態度を改めないと!と深く感じました。



2. レビューの発想法のご紹介

1. 定型連想形 (テスト技法、SCAMPER)

【感想】「定型」という言葉からテスト技法を思い浮かべましたが、「SCAMPER」は知らなかった言葉で目からうろこです。

2. エラー推測型 (過去データの活用;KKDの「K:経験」)

【感想】プロジェクト終了後はやりっぱなしの現状を深く反省しました。まずはプロジェクトごとに簡単な振り返りから行おうと奮起しました。

3. 自由発想型 (発想の飛躍、飛び石・分類・ペルソナ等)

【感想】何をやらかすか予測できない「お客さん」の立場になり「システムをいぢめる」シーンで使えるような発想です。

◇全体所感

レビューする「眼」を養うためのポイントが分かり、満足です。発想法2. 推測型のアプローチは、まだ行っていないことの1つ。早速実践しようと考えています。

(おおのゆか)

■□■ ミニコラム ■□■ 今こそ「レビューの眼」をひらけ!!

ソフトウェアの要求や仕様は、目に見えないものである。身近な反省会で、このような体験はないだろうか。

- ・そのような使われ方は想定していませんでした。
- ・テストケースが思い浮かびませんでした。
- ・仕様書に記載がなく、テストが漏れました。

よく『仕様書の行間を読み』とか『脳汁が出るまで考えろ』と言われるが、**見えないものをどうやって見れば良いのか。**(いつの間にか、脳汁を出すための方法を議論していないか?)

ジ●ンプに出る武闘家なら、心の眼で真実を見極めて必殺技を出すところだが、我々テスターの**奥義**は何だろうか?

そのヒントが、**ここ**にあるかもしれない。

(かどやん)

■チュートリアル

「テストの読み・書き・そろばん」

— JaSST Kansai 実行委員

◇セッション概要

昨年のチュートリアル「テストの基礎講座」に、レビューを加えて、**さらに内容をバージョンアップ**。これからテストリーダーを目指している技術者を対象にテスト設計から実施、報告の進め方まで、**テストの基礎をわかりやすく解説**。

レビューについては特別講師として奈良先端科学技術大学院大学の森崎先生が登場!!

◇セッション感想

2年ぶりに参加した JaSST Kansai のチュートリアルレポートです。

実行委員の方が資料を作成講師を担当されるということで大変興味をもって参加しました。

タイトルは「テストの読み・書き・そろばん」。1~3年のテスト実務者が対象ということで、ソフトウェアテストの基礎が中心。

参加者は、**スーツを着た20代くらいの方が多数**、1年目の方もいらっしゃったようでなんか緊張した雰囲気?(テスト暦10年目の私はTシャツGパンで若干浮き気味)昼休みを挟み、たっぷり4時間おな一杯勉強できました。

ソフトウェア品質の話から、技法と演習、テスト管理までを**実際に現場で指導されている方が丁寧に解説**されており、更に今年から、レビューをWACATE2009夏にもゲスト参加された森崎氏が担当されるなど年々内容がバージョンアップしているって凄いですよね。

私も社内で勉強会を主催していますが勉強会のメンバーと来年の新人向けに講義資料を作ってみようかなと思いました。(おくむら)

■ワークショップ・グループ討論

「その設計にモノ申す!

~テスト開始前にできること~」

—コーディネータ: 亀井 浩気氏

◇セッション概要

「ソフト開発者とテスト担当者は、同じ仕様を見ているのに何故不具合が生じるのか?」という、テスト担当者なら、一度は感じたことがあるだろう疑問からセッションがスタート。そんな疑問が湧く**原因の大半が、ソフト開発者とテスト担当者間での、仕様解釈の齟齬や仕様変更の連絡漏れから来るものである**。このようなことが起こらないようにする為の1つの方法をワークショップ、グループ討論を交えて学ぶ。

◇セッション内容

【お題1個目】

『テスト太郎の目のテスト項目を考えてみよう!』各自が抽出したテスト項目を見てみると、**機能と性能に分類することが出来ると分かる**。

しかし、**機能は独立してテストできるが、性能は機能がなければテストできない**。

つまり、性能は機能に付随するものと言える。

【お題2個目】

機能と性能を意識しながら、状態遷移図を用いて、『缶ジュースの自動分配機のテスト項目を抽出してみよう!』

これは、まず、各自で取り組み、その後、即席で構成された4人のグループワークヘシフトチェンジ。

チーム内では「自己マトリクス」を用いて簡単な自己紹介。A4用紙に自分に関連するキーワードをランダムに書きこんだものをグループメンバーに見せ、質問に答える形式でアイスブレイクしつつ自己紹介。アイスブレイクの後、各自の答えを情報共有し、状態遷移図と状態遷移表を作成。

その後、追加で開発担当者作成の機能一覧が提供され、機能一覧とテスト項目からFTマトリクス表を作成。その結果、機能漏れ、テスト項目漏れがあることが発覚。

つまり、ソフト開発者が出した項目とテスト担当者が出した項目を組み合わせることで、お互いが漏れている部分がどこなのかを知ることが出来ると分かる。FTマトリクス表は、ソフト開発者とテスト担当者間での仕様に関する理解相違点の抽出に使うことが可能だと言える。

テストを始める前にFTマトリクスを用いることで、最初に出てきた「ソフト開発者とテスト担当者は、同じ仕様を見ているのに何故不具合が生じるのか？」という問題の根本的原因である、ソフト開発者とテスト担当者間での仕様解釈の齟齬や仕様変更の連絡漏れを防ぐことが出来るのではないかな。

◇セッション感想

FTマトリクスは初めて耳にした言葉でしたが、実際にマトリクス表を作成することによって、ソフト開発者とテスト担当者の認識違いの部分が顕著に現れたので、おおっと思いました。実際に仕事をしていて、開発者との仕様認識違いとかあったりするの、機会があれば、使ってみたいです。(かわさき)

■パネルディスカッション

総合テスト開始の受け入れ条件とは？

～開発チームでの品質保証条件を考えてみよう～

ーパネリスト：上野 秀剛氏/角口 勝隆氏/木下 義直氏

ーコーディネータ：加澤 繁信氏

◇セッション概要

「総合テストの受け入れ条件は？」

よくありがちな、「テスト開始してみたらテストできるレベルではなかった」ということを未然に防ぐために...

パネリストの方々が、以下の立ち位置となり、お話をしてくださいました。

- ・組み込み系の単品開発の第三者検証
- ・研究開発(研究者)
- ・エンタープライズ系の品質保証
- ・組み込み系商品開発のソフトウェアQA

各人のコメントに対し、「同意」「反論」「追加コメント」を示すのに、JaSST東京の「3色カード」がリサイクルされていました♪

あらかじめ予稿集には回答欄だけ空欄の表が載っていて、その表をパネル進行しながら埋めていきました。

◇セッション内容

私が注目したコメントをピックアップしつつまとめました。

【質問1：開発スタイル】

ウォーターフォールとスパイラルとを使い分けていたり組み合わせているケースが多いようです。研究開発ではプロトタイプかスパイラルといった、「作りながら」のスタイルになるとのこと。

【質問2：求められる品質レベル】

全員「お客様の満足度を満たす」という回答。その中で、お客様は誰？という話題ができました。「開発にすればテスト担当がお客様。きちんと引き継ぐことが大切。」
「例えば自動販売機のお客様は誰だろう？売る相手

手と使う相手が変わる。」

【質問3：優先される項目】

これは、立場によって意見も様々のようです。単品開発：お客様にとって優先されるものと企業にとって優先されるものが違う。やはり売れないといけないうる。もちろん品質も。

研究開発：研究開発対象が正しく動くか、性能面、もあるが、(プレスリリースで)どれだけインパクトを与えるか？企業の目的にどれだけ沿えるか？も大事。
エンプラ：企業は社会に何か貢献しなければいけないのではないかな。QCDのバランスでいうと品質◎納期○費用○が理想では。品質よければ残りも付いてくる。品質は後からつけ足せない(あげられない)。付け足そうとするとバランスが狂い、成功しない。
商品開発：いきなりシャットダウンしないとか、それも基本だが、PCの場合はいろんなお客様がいるので、他社に合わせる場合がある。

【質問4：仕様変更の許容】

企業側と研究開発側とで違いがみられました。企業側は「変更可否を検討し、可能なら受け入れる」という意見が目立ち、研究開発側は「変更要求は受け入れるのが前提。吟味すべきという点は同じ」という意見でした。

【質問5：重視するテストは？】

この回答も立場によって多少の違いが見られました。
単品開発：早期不具合発見を重視。ユーザーの使い方を考慮してテスト。速く発見するという点ではレビュー。十ユースケースのシナリオベースのテスト
研究開発：スモークテスト(早めにテスト)。つくろうとした機能・性能が実現できているか？
エンプラ：基本は全部。性能を優先し、次にユーザビリティ。

商品開発:全網羅はできないのでユースケースを想定してテストケース作成。市場問題の内容をフィードバック→第三者検証 or 開発検証どっちが担当かは QA が振り分ける。

【質問6:移行判断はどのように?】

大きく分けて2つの意見が出ました。

「どたばた感」「通知しにくい懸念事項」など、メトリクスで測れないものや見えないものを察知する(見る)ことが重要。

また、ルールを守り、問題点を明確にするなど、奈良さんの基調講演でも話がでていたことも重要。

◇セッション感想

参加者アンケートでは「開始基準がある」は半数以上でした。

しかし、開始基準はあっても「機能しているか?」と会場で問われると、少数になってしまいました。テストの開始基準が何のためにあるのか、改めて考えていく必要があるようです。

最後に奈良さんから以下のアドバイスがありました。

- ・テスト完了基準を守ろう
- ・交通ルールを守ろう(プロセス遵守)

最後に「負傷者」を教えても何の意味もない。

・「あとでやろう」をやっていないことがたくさんある。(忘れる)

ルールを作った時点で満足してしまいがちなので「守る」というキーワードを心がけていくことが必要だと強く感じました。

(ばんばん)

■クロージング

クロージングはもうひとりの実行委員長、宿口雅弘氏のご挨拶で締めくくられました。

不況でスポンサーが不足している中での開催は大変だったようです。開催できて本当によかったと思います。

JaSST Osaka 初開催から数えて5年が経ち、「関西から情報発信したい!」ということにこだわって活動してきたそうで、今回のほぼオリジナルな企画に対し誇りと感謝の気持ちを抱いているとのこと。これまでの積み重ねがあつての今回の内容を聴講できたことはとても幸せに思いました。

また、今後について提案がある方、ウェルカム♪だそうです。是非!!

そして、また来年、開催できるように・・・

「まずはてふかんに参加しませんか?」

関西の、特に若手のみなさん、てふかん(TEF 関西勉強会)は多くの先輩方からたくさんのことを学べる素晴らしい場だと思います。是非参加してみたいかがでしょうか?

※てふかんに参加するには、まずTEFに入会しましょう^^TEFに入会后、MLで「てふかんに参加したい!」と叫ぶと入会できます。

(ばんばん)

■JaSST おなじみの情報交換会♪

同じくクリエイターズプラザにて開催されました。会場にはワークショップの成果物が展示されました。同じ課題でもそれぞれ違いがでてくるのが面白いです。

お料理も美味しく、また「これは何?!」と、食べてみないと何かわからないちょっと不思議な料理もありw食べても分からず材料当てしながら食べたりと、いろいろ楽しませていただきました。

会場も明るかったですが、参加者も負けないうらい明るく賑やかに過ごしていました。実行委員の方々とも落ち着いてお話できたことがとても嬉しかったです。もちろん、参加者の皆様とお話できたことは言うまでもなく嬉しく思いました。

(ばんばん)

各セッションの資料はすでに公開されています。是非ご覧ください。

<http://www.jasst.jp/archives/jasst09w.html>

今年のJaSSTはあと3箇所で開催されます。

北海道:10月2日

東海:10月16日

九州:11月12日、13日

それぞれ、レポートを執筆してくださる方、大歓迎です^^Magazine編集部までお気軽に連絡ください♪また、今回のように当日レポート依頼をさせていただくことがありますので、その際は是非ご協力お願いいたしますm(_ _)m

次は北海道!!・・・10月初旬はまだ旅費が高いのがちょっと痛いww

(ばんばん)



もうひとつのWACATE 2009 夏

～僕たちが作ったもの～

「やるからには、伝説作ろう。」

この一言から始まったのだ。

伝説と言われるレベルのものが出来上がったと思う。寄稿者からの原稿が集まるにつれ、それは確信へと変わっていったのだ――。

■企画。

企画は、WACATE 2008 冬の打ち上げのときにアイデアが出た。それはなんてことないメンバーの過去話、普通の会話から生まれた。

「WACATE でコミケに出れたら面白いよね。」

それは面白いwと飲みながら素直に思った。

確かにソフトウェアの技術などの本を出している方もいる。別に趣味で出す分にはそんなにおかしいものでもない。

そのときには当時創刊準備中であつたWACATE-Magazine が継続して発行できたら総集編みたいなものを出すか、程度にしか考えていなかった。幸い？にも僕にはコミケへの出展経験があつたし、他複数名にも経験があつた。

しかし、どんな同人誌を作るのかその時は考えもなかった。

あるメールの知らせがあるまでは。

■始動。

ある日のメール。

「なんか、コミケ準備会から青い封筒が今日届きましたよ。中には参加チケットが。」

この時、WACATE 2009 夏本番直前。

まさに、レビューセッションの最終調整をしていたところだった。

WACATE 実行委員会にメールが流れると、実行委員内は色めきたつた。

「マジでやるのか？w」

そりゃそうだ。この忙しいのに。誰だってそう思う。

「やるからには、伝説作ろう。」

このとき、誰かが**魔法**をかけた。

俄然やる気になったメンバーで、肅々と準備が進められた。

JaSST'09 Tokyo や LT、WACATE-Magazine に WACATE 2009 夏、雑誌寄稿などさまざまな発表資料を作成し、人に読ませることを考慮するという慣れない作業に疲れていた僕たちは「言いたい放題言えることって素晴らしいのだな」ということに気付きはじめていた。

「いつも執筆とかしてる人は大変なんですね」

雑誌に寄稿する際の原稿レビューをしていたときにそんな会話をしていた。

その頃から、だんだんと **Software Testing ManiaX** の方向性が固まってきつあつたのかも知れない。

気付けば、「好き放題に語れる場所にする」という方針が決まっていた。

Software Testing ManiaX を手に入れた方はご覧になったと思うが要項は本当に勢いに任せて書いたものであつた。

ほとんど何を作るかを決めておらず、ただあつたのは「やるからには、伝説作ろう。」というワンフレーズと「好き放題に語れる場所にする」というぼんやりしたものだけ。

ともあれ、**伝説**を作るからには協力者が必要だ。そう僕たちは思った。

■加速。

6/25 日都内某所。某雑誌の打ち上げがあつた。

恐れ多くもご寄稿させていただいたご縁があり、執筆者の方と会えるチャンスであつた。これは、協力者を募る絶好のチャンス。僕たちはそう思っていた。

執筆者の方々と雑談をしながらも、「コミケ出るんですよーwww」と話が盛り上がり、どんどん話が大きくなり、テンションが上がっていった。

「面白そうだなあ、やるよーw」

「おお、それは面白い、是非やらせて。」

これは…イケる。

僕たちは、理想を語りながら、現実が近づいてきた足音を確かに聞いた。

その打ち上げを実施した夜、僕たちは都内にホテルを取った。盛り上がったテンションを維持するためだ。

部屋に入るなり、要項について詰めていった。そして、今後のアクションについても大まかに決める。時間は無い。迅速な対応が必要だ。何せ、僕たちは**伝説**を作るのだから。

打ち合わせ終えたのは午前3時。僕たちは既に覚悟を決めていた。

■疾走。

6/25日の打ち上げから3日たった6/28日、執筆依頼をする方達にメールを送った。

「伝説を作りましょう——。」

出版の関係上、非常にタイトなスケジュールであった。正直なところ、あと数日で原稿一本書け！というくらいのスケジュールであった。

それでも情熱と気品に満ちあふれた、オトナゲの無い計13名の執筆者の皆様にご名乗りを上げていただいた。メンツは大きな声で言えないが、超豪華だ。

僕たちは震えた。恐怖からか？…いや違う。武者ぶるいだ。

このときには既に「WACATEでコミケに出れたら面白いよね。」という考えはどこにもなく

「僕たちは伝説を作るんだ」という意識になっていた。

印刷会社に連絡をし、インフラの整備を行った。ついでに以前から作りたかったグッズにもアタリをつける。デザインも作った。表紙のデザイン、グッズのデザイン。さらに、どういう販売方法をするか、もデザインした。

「やるからには、伝説を作ろう。」

「やるからには、コスプレ売り子だろう。」

なぜか僕たちの息はぴったりだった(笑)。

コスプレ衣装の選定も時間勝負だった。様々な検討の結果、

「伝説だけに王道で。」

ほどなくして、メイドさんの衣装ということが決定した。衣装はちょっとその筋では名の知れたところに依頼をかける。

そして、着々と原稿が届き始める。でもまだ問題は山積みだった。

■奔走。

衣装の選定・検討をしながらも売り子さんの確保に奔走。なんとか2名の売り子さんの許諾を得る。最終的意志確認と、衣装の確認。

やってもらうことの説明などを実施し、マニュアルを作成しながらも衣装を発注。

…もう後には引けない。

販売ブースのデザインも必要だ。ラフを描く。

イメージ通りになるように調達を行い、仮ブースを作成。ひとまず写真撮影してメンバーに展開してレビューを行った。

小道具の追加を打診される。よし。それで行こう。だいたいイメージ通りになった。

ホッとしたのもつかの間、入稿期限が迫っている。本の表紙も、ページデザインもまだ未着手だ。急いで表紙のデザインを作る。案を2つ作成して執筆者たちに送付。多数決を取った。

ページデザインは難航した。レビュー。やり直し。レビュー。やり直し…

伝説を作るのに、妥協は禁物だ。

「かっけ——！」

よし。コレでいこう。決まったのは入稿前々日。じわじわと迫る原稿の入稿日。

そんな中で、ストラップのデザインも作成した。

「OK！」

こちらはなかなか順調。すぐ発注をかける。

そして入稿前々日、全ての原稿が揃う。レイアウトを実施。僕は表紙の案から表紙のイメージファイルの作成をする。入稿日は明日、平日。昼休みに送付するしかない。誤字修正依頼が来る。…ま、負けないぞ！

「やるからには、伝説を作ろう。」

僕の頭の中には、その言葉がリフレインしていた。

7/25日、無事入稿——。

僕たちはドタバタしながらも、なんとか**伝説**を形にすることができた。

■発信。

しかし、まだ僕たちの活動は終わらない。この全員で作り上げた伝説を、伝えなければならない。

—Magazineは？

あと数日で発行だ。急いで告知記事を作る。

関係者にもじわじわと告知する。

全然仕事に関係ない友人にも告知する。

「今度、業界のワークショップ関連で、同人誌出しますw」

「…おまいは何をやってるんだw」

…ホント、何やってるんだろw

半ば自嘲気味に僕は笑った。

かくして、Magazine008号の記事が出来上がり、blogやWACATE-SNS等での宣伝もした。

見えないところでメンバーや執筆陣も告知をした。こうやって、じわじわと水面下で情報は展開されていた。

■焦燥。

「本当に売れるの？」

コミケに参加している友人などに話をするたびに聞かれた。

「そんなの、わからんw」

僕はこう答えるしかなかった。どれだけニーズがあるのかわからない。でも、確かに素晴らしいものが出て来た。売れるかどうかなんか関係ない。

いいものが認められる世の中なのであれば、きっと見て喜ぶ人がいるはずだ——。

有明という局地で、数時間しか無い時間で。参加人数は膨大で混雑するのは目に見えている。

「コミケでそんなの売れるの？」

一わからない。

ともあれ、もう動き出してしまったのだ。僕たちを止めることはできない。あとは、人事を尽くして天命を待つのみ——。

■本番。

「おはようございます。」

僕は当日、国際展示場駅で売り子さんと待ち合わせをした。

二人とも気合充分。本気で臨んできてくれた。仕事をしやすいように、まとめておいたマニュアルをしっかり読んできてくれていた。よし。準備は万端だ。

ブースに着くと、そこには既に印刷業者から本が搬入されていた。その数、4箱。

「売れなかったら、これを全て持ち帰る必要があるんだな。」

僕の頭を不安がよぎる。売り子さんも苦笑いだ。

ともかく、まずは衣装に着替えてもらうことにする。彼女らが戻ってくるまでには、ブースを形にしておこう。僕は黙々とブースを作り始めた。イメージどおり。ちょっと狭いかな。

汗だくになってブースを形にしたところで、売り子さんたちがメイドさんになって帰ってきた。

…なんだかやる気が出る。(単純)

記念に写真を撮影。本人達の意向により公開できないのが残念だ。



このようなブースができあがった。準備は万端。後は開場を待つだけとなった。

今までの長いようで短い奔走と、これからの長く感じられるであろう戦いの予感に胸が躍った。

恒例のアナウンス10時。開場だ。

「はい。行列とおります！」

開場からまもなく、大手サークルの行列が出来ていた。慣れないメイドさん達が好奇の目を向ける。よかった。退屈はさせないで済みそうだ。

そう思ったのもつかの間。

最初にサークルに訪れたのは…WACATE参加者だった。

「早いですよ！www」

本当に早かった。10時から10分も経っていない。

知り合いに頼まれたのであろう、大量に購入し、彼は人の波に溶けていった。

そして、間もなく女性が購入していった。WACATEの会場では見ない方だ。誰かに依頼されたのかもわからないが、とにかく早かった。

割りと WACATE 自体チェックをされていたのか、開始 30 分で 10 冊の頒布をマークした。—予想外だ。

受け渡しをメイドさんに頼んでいた僕はうちわで彼女らを扇ぎながら SNS の日記を書こうと思いついた。

書いているそばからどんどんお客さまがいらっしゃる。僕は興奮した。

間もなく、WACATE 参加者すずきしょうごさん率いる弾丸ツアラーが到着。一開始 1 時間で 35 冊を超えた。

あれだけの情報公開しかしていないにも関わらず、すごいペースで頒布される。

11:45 分にはなんと 70 冊が頒布されていた。予定数を 100 としていたのだが、午前中に終わってしまいそうな勢いだ。

僕たちの心配は全くの杞憂に終わり、12:30 には 100 部を超え、予備を出さなければならない事態に陥った。

WACATE 実行委員会のむらかみさんやばんちゃん、やまさきさん、さわださんが応援に駆けつける。

智美塾でお世話になっている吉澤塾長も差し入れをしに来てくださり、WACATE ブース内はものすごくにぎやかになった。

一声を上げるこちらにも力が入る。

WACATE 参加者の方よりも、初めて見る方がどんどん購入していく。立ち読みをしたあとに購入されていく方もたくさんいる。

年上の方が立ち読みをしながら読み、購入していく様には戦慄を覚えた。

「うわぁー！なんでこんなものを見つけちゃうんだよー！」

「え！？ コレマジで！？ …本気だよーコレ！」

「あー————ど——しよ———っよし！
昼メシ抜きます！ください！」

立ち読みをしてから一度去り、また来てくれて購入してくださった方もいた。

まさか、こんなにニーズがあるなんて。
まさか、こんなに買ってくれる人がいるなんて。
こんなに、喜んでいただけるなんて。

僕たちは、言いようのない満足感を噛み締めていた。

WACATE 実行委員の皆さんに支援していただきながら、飛ぶように世に出ていく「Software Testing ManiaX vol.1」

気がつくと、すでに 15:00 を回っていた——。

■そして伝説へ。

WACATE 実行委員の皆に手伝っていただき、肅々と撤収作業が行われた。予備まで出してしまったので、持ち帰りは 1 箱だけになった。

その際にざっと集計した結果、180 冊の頒布がされたことがわかった。

そもそも 100 部くらいしか売れないと思っていたのに、改めて注目の高さや中身のクオリティを再確認した結果になった。

「vol.1 ってコトは、もちろん 2 もやるんですね？」

購入された方からそんな質問をされた。

もちろん、やりたい。次はさらなる高みへ。

僕たちはそう誓いながら、会場を後にした。

この Magazine が出る頃には、既に申込は済ませてあるはずだ。

そう。さらなる伝説を紡ぐために—。

■最後に。

もうひとつの夏のドタバタ記、いかがでしたでしょうか？ちょっと物語風に書いてみましたw

とゆーワケで次も当選したら懲りずにやります！
今回購入できなかった方も、購入してくださった方も、是非ご覧になってください。

きっと、今回のものに負けじと濃ゆいものが出来ているはず。勝るとも劣らない熱いモノを今後も作っていきたいと思います！

今後とも WACATE-Books™ Software Testing ManiaX™ をよろしく願いいたします！

書いた人：こやまん

■読者プレゼントのお知らせ■



WACATE の HP や本号で紹介させていただきました、”伝説の同人誌”こと

「Software Testing ManiaX vol.1」と

「WACATE オリジナルネックストラップ」を
入手できなかった方、興味の湧いた方、はたまた
予備に1つ持っておきたい方に朗報です！

な、なんと WACATE-Magazine 読者の皆様の中から
抽選で **1名様に**

「Software Testing ManiaX vol.1」と

「WACATE オリジナルネックストラップ」を
1つずつプレゼントしちゃいます！

お申込みは以下の項目を記載し、WACATE-Magazine 編集部 magazine@wacate.jp 宛にメールを送付してください。

1. お名前
2. メールアドレス
3. WACATE に参加された経験はございますか？
4. WACATE-Magazine をどこで知りましたか？
5. WACATE-Magazine は定期的にお読みですか？
6. 質問 5. で「yes」とお答えの方に質問です。
Magazine の中で好きなコーナーはございますか？あれば、そのコーナー名を教えてください。
7. 質問 5. で「no」とお答えの方に WACATE-Magazine vol.9 で最も興味深かった記事は何ですか？
8. WACATE-Magazine vol.9 号のご感想をお聞かせください。
9. WACATE-Magazine についてのご意見・ご要望等ございましたらお聞かせください。

厳正なる抽選を実施し、当選された方には WACATE-Magazine 編集部より

「送付先のご確認メール」を送付させていただきます。

現時点では **コミケ以外での入手が出来ませんので、大変稀少**です。

皆様奮ってお申込みください♪

WACATE ShortShort

-vol.7-

“少林寺拳法”

～国広さんと人づくり～

■挨拶

こんにちは、おたべです。WACATE ファン主催によるイベント、WACATE ShortShort も早くも **Vol.7開催**となりました。今回のイベントはすばり『**少林寺拳法**』。「ソフトウェア・テスト PRESS」や「暮らしに役立つ QC セツ道具」等でお馴染みの**国広さん**が、少林寺拳法歴 **28年(5段!)**の経験を活かし、WACATE ファンの皆様に少林寺拳法のイロハについて実際に体を動かしながら教えてくれます。

もちろん国広さんのことですから話題は少林寺拳法にとどまらず**ソフトウェア開発**まで広がっていくようです。この誰もが未体験の組合せに対し、若手やベテラン関係無く楽しめること間違いなしです（と言うか全員少林寺拳法は初心者でしょ W）。

そろそろ運動の秋、みんなで気持ちよく汗を流した後のビールは美味しいですよ。

そして、この夏伝説の**アレ**が手に入るチャンスかも…

■開催日時

9月27日(日)

■開催場所

和光市総合体育館の柔道場

<http://www.konamisportsandlife.co.jp/trust/wako/index.html>

■当日プログラム

14:30 和光市駅改札口に集合後、バスで移動

15:00～18:00 少林寺拳法の練習

- ・ 武術とソフトウェア開発の共通点
- ・ 上達論概論
- ・ 少林寺拳法の特徴
- ・ 準備体操(柔軟含む)
- ・ 受身
- ・ 基本(剛法)
- ・ 基本(柔法)
- ・ 基本(整法)
- ・ 整理体操

18:00～ 有志で打ち上げ

※練習は解説と休憩を交えながら、各自の体力に合わせて調整していきます

※練習時には着替えおよび後片付けの時間も含まれます

■用意するもの

- ・ 運動しやすい格好(道着不要)
- ・ 着替え(シャワー室を利用可能です)
- ・ タオル
- ・ 飲み物

■費用

道場レンタル代(¥3,000)の人数割り&打ち上げ代

快諾：国広さん

いいだしっぺ&下準備：おたべ

詳細は別途、WACATE-blog や WACATE-SNS などでお知らせします！



伊せんばいにきく。 氏

第8回：【社会人として大切なことを教わった教育実習】島津エス・ディー株式会社 前畑 佳史 せんばい



WACATE-Magazine 愛読者の皆さん、はじめまして。
前畑佳史（よしふみ）と申します。
JaSST Kansai や Kyushu では実行委員をしていますので、参加された方でしたら、お目かかったことがあるかもしれませんね。

学生時代やバイトの経験が知らないうちに役立っていることはありませんか？

今回は、まだまだ若輩者の私ですが、今までに役立ったことをお話ししたいと思います。読者の皆さんはいかがでしょうか？

■プロフィール

勤務先も住まいも京都で、美味しい水とお酒で有名な伏見というところに住んでおります。（京都はお酒もウイスキーも美味しいですえ〜）
今年には新型インフルエンザの影響で京都への観光客がガタ減りです。全国の皆さん、是非、京都観光にお越しください。その際はボランティアガイドをさせていただきますよ。お気軽にご連絡ください。（一応、京都検定3級なんでお任せあれ）さて、本題に戻します。

現在は大手精密機器メーカーのシステム子会社で管理部門に所属し、自社製品（医療情報システムや物流システム）の品質管理をメインに担当しています。と言うことで、兼業テストエンジニアとお考えください。
品質管理とは「品質を確保するためのあらゆる活動」と言われるだけあって、やらねばならないことが山のようにあり、日々格闘しています。（JaSST や TEF 関西がどれほど役立つことか）

この原稿を書いている、「おおっ、勤続24年もたってしまった」と振り返っています。

さて、長らく金属を分析する装置のアプリケーションソフト開発（組込み、エンブラ含む）を行っていました。その頃、分析を自動化する案件が多くなり、分析装置の周辺機器（シーケンサーや多関節ロボットを使うFA関連のコントローラ）ソフトウェアをやらせてもらいました。

■FA関連で役にたったこと

分析装置側のアプリを開発している時は、自動分析システム全体が組みあがった後、システムテストから参加していたのですが、コントローラ側を担当してからは周辺機器の組立てや調整段階から加わることになりました。今まではあまり関係が薄かった機械系図面を読むようになり、ハードウェアのドキュメント体系を学ぶことができました。

機械系や電気系の担当者、工事を行う協力会社の方々とコミュニケーションを持つ機会ができ、今までは知らない様々な分野（空気圧や油圧の制御から安全など）のことを教えて頂きました。

また、分析に至るまでの前処理工程を学ぶことができたので、金属の特性なども学ぶことができました。これらの**ハードとソフトの双方を学んだ経験が、現在、自社製品（病院の受付機）の品質管理を担当する上で大変役に立っています。**

■学生時代の経験で役にたったこと

学生時代に役立ったことは何か？と尋ねられると、「**教育実習**」と間違えなく答えます。（一応、中学と高校の社会科教員免許を持っています）

■教育実習の経験が今の仕事で役立ったこと

もちろん、大学のゼミでの発表も役立ちました。
しかし、この3週間の経験は今までの経験したことのないものでした。人前で話す度胸はここで会得しました。実習先の母校は仏教系男子校です。やんちゃな盛りの子達です。そこへ女子大生ならマドンナでしょうが、私は普通の兄ちゃんです。
実習生の授業を楽しみにしている子は皆無でしょう。だから、「迷惑にならない授業をやろう」と思いました。

他にも、40名の教室で聞こえる声で話をすることや授業中の常時1対多という環境を経験することができました。相手は高校生ですが、授業料を払っている言わばお客さんです。
指導教官の先生から以下の課題が与えられました。

- 1)飽きさせないような授業をせよ。（45分間集中させる）
- 2)同時に学力をつけさせること。
- 3)生徒の反応を常に見よ。

1)、2)を実現するには生徒にとって魅力的な授業をすること、それを実現するには……教材の準備を周到に行うことでした。

質問や課題を生徒に投げかけると、返ってくる答えの予測を立て、タイムチャートとQ&Aを混ぜたようなノートを作りました。（当時にMS-Powerpointがあれば……）

今ではお客様へのプレゼンテーションがやりやすくなりましたが、当時は必死に編み出した技でした。これで度胸に加え授業の自信が出ました。

さらに、このノートに厳しい突っ込みを入れてくれた指導教官のおかげもあって、学級崩壊や定期考査で私が授業を行った範囲の点数も低くなってホッとしました。（振り返ると、**厳しい指導はありがたい**）

この経験が会社の新人教育や勉強会などで役に立っています。たとえ、**何となく聞いている人を見つけたら質問を投げたり、だらけてきたと感じると、身振り手振りリアクションを大きくしたり**します。

また、重要なところでは、黒板を叩きながら「**ここだけは覚えて帰ってください**」とか「**この一言は報告書を書くことをお勧めします**」などのメリハリをつけることを心がけています。

今から思えば22歳で経験できたことは幸せであったと思います。（わが子には教員免許取得を勧めています）

■教育実習で一番辛かったことは

こうして生徒にじめられることもなく、無事に実習を終えましたが、**一番辛かったのは板書**（ばんしょ：黒板を使って字を書く）が大変でした。**私、実は左利きなんです。**指導教官は部活動の顧問でした。

「お前、左利きやな。その上、筆順メチャメチャやないか。教壇に立つ資格ないよ。ダメだよ。明日から右で書けよな！右手やで！」
と言われ、目がテン……

（そんなアホな〜っ、勘弁してくれ〜、助けてくれ〜と心の声）

そのまま、現代国語の先生を紹介され、徹底的に筆順を覚えさせられました。この時、右手で黒板の字を書く練習したこと、筆順を覚えたことも役立ったことに書き加えねばなりません。（今はパソコンのおかげでダメです）

筆順がメチャメチャなのは私だけ？正直、左利きには習字もそろばんも不向きです。（だけど悪いのは私。すみません。）

本当に、「おかげさまで……」の教育実習でした。蛇足ですが受け持ったクラスの男子生徒たちから、お礼、いや励ましの「寄せ書き」をもらった実習生は私だけでした。（大学生の長女に話すと、「うわっ、キショ〜」って言われました。何でやねん。美談やないか！）

■最後に

学校では先生方が卒業生のことを「**教え子**」と仰います。当時、この言葉を使えることがうらやましく思いました。

企業では「**教え子**」という言葉はありませんよね。企業では卒業がありませんから。

しかし、この業界の「智美塾」はいづれ卒業生が出るはずですよ。そのとき、塾長や先生方と塾生の間に「教え子」という愛情を持った言葉が生まれるかもしれませんね。業界の発展のため、すばらしい活動を続けて頂きたいと思います。

乱文乱筆失礼いたしました。

ワカテにきく

第9回：【開発の現場でテストするために】 田島 俊宏

こんにちは、田島です。私の仕事は「テストプロセスの作成とテスト実施をお客様に提供すること」です。お客様の開発現場と一緒に入り、要求を満たすテストシステムの開発や運用を行います。弊社はロボットを使ったテスト支援で有名かもしれませんが、xUnit を用いて開発者が実施できるテスト自動化を提供する事も多くあります。この仕事は「開発現場」と「品質保証部門」の間に立ちますので、板挟み忍耐力とか気分転換の早さなども必須スキルです(笑)。今回は開発現場にテストを根付かせるノウハウの紹介と自分がWACATEに参加している背景の関わりについて触れたいと思います。

◆イテレーション開発とテストの関係

ある程度の開発規模になると、ウォーターフォール型で全体を一気に開発することはリスクが大きくなります。進捗が徐々に遅れはじめ、気がついたときには遅れを取り戻すために大きな工数が必要になってしまったなんてケースは、皆さんの身近にもあるのではないのでしょうか。そのため2~3ヶ月程度の規模に開発を分割(フェーズ分け)し、1段階づつ階段を上るように開発を進める手法を採用するようになりました。この結果、開発のフェーズに合わせてテスト工程が短くなってしまったことや、最新の開発状況に合わせて頻りにテストケースを更新するなどの対処が必要になったのです。

これらを解決するため、「開発者がテストをしたい」、「開発スピードに追従するテストが行いたい」、「テスト実行を自動化して、結果が早く知りたい」といった要望が強く上げられるようになってきました。

◆テストケース作成を楽にする

開発者がテストを行うためには、テストケースを楽に作成できるようなテスト仕様書のフォーマットを整えることから始めます。大人数がテスト仕様書を書きますので、フォーマットが曖昧だと後で苦勞が多くなります。例えば、ある機能のテストケースがどんな観点で作成されたのか解らなかったとしたらどうでしょう?レビューしても十分なテストケースなのか判断できませんので、妥当性が判断できません。また、指摘事項がレビューアの技量に依存する部分が増えるのも、品質指標を測定する側(品質保証部門)からすると好ましいとは言えませんね。「テストケースの妥当性が不明なので、テストケース数さえ多ければ良いじゃないか!」といった事態になることもあります。こうなると残業な毎日を過ごす羽目になりやすいです。

まずは、テストケースを考えやすくするため「テスト観点(指標)」を明確にしましょう。この場合のテスト観点は「ソフトウェア品質特性」の「品質副特性」のような指標を視点にして作成することになるかと思います。



「テストケースが爆発しそうだ!」とか、「どこまでテストしても安心感がありません!」と言ったテストのブラックホールに落ちる危険性は減ります。経験上、テスト観点が決まらないと、直交表やオールペア法などを使用してもテストの網羅度はあまり向上しませんでした。

◆テスト実施と結果集計を自動化する

開発者がテストを行うためにテスト実施は自動化しましょう。コーディング直後からテストを行い、不具合が出たときの対処を早く行うことは開発コストの削減や、開発者のモチベーション向上にも大きな効果があります。開発にテストを追従させるなら、xUnit(JavaならJUnit, cppならCppUnit, CならCUnit)のようなテスト実行をサポートするフレームワークを用いることを勧めます。また、xUnitでテスト実施を自動化したなら、実行結果の取りまとめも行ってくれるHudson(<https://hudson.dev.java.net/>)の利用を検討して下さい。こんなツールがフリーで手に入るなんて感激モノです。

◆WACATEに参加して

2009夏より参加しはじめました。参加を決めた理由は、テストを取り巻く社会環境を直接感じたかったこと、仕事を離れてテストと話し合う仲間が欲しかったからです。実際に参加してみると、みなさんのテストにかける情熱やお客さまの要求レベルの高さなど、貴重な情報と仲間をたくさん得ることができました。自分がお客様に提供している仕事が、最新の動向に追従しているなあと認識できたことは大きな自信にもなりました。WACATEはテストに関する見識を広げ、自分の視野を広げることができる貴重な存在だと思います。

本コーナーはリレーコラム形式で進めています。
今回はWACATE 2009夏にご参加いただいた、田島さんに書いていただきました。
有難うございました★

Software Test Topics

当番：上田 卓由 (Magazine 編集部)

こんにちは、上田です♪

みなさん、夏休みはどんな感じだったでしょうか？

8月は花火大会があったり、お祭りがあったり、海にいたりいろいろイベントが盛りだくさんですよな～。

ちなみに上田は超マニアックテスト本とストラップを買いにコミケに行ってきました～o(≧▽≦)o

それでは、今月もお役立ち情報をお伝えしていきます！！

【イベント】JaSST'09 Tokai

開催日：2009年10月16日(金)

場所：名古屋市工業研究所

参加費：シンポジウム参加費：5,000円(税込み)、

シンポジウム参加+ワークショップ参加費：5,500円(税込み)、

情報交換会：2,000円(税込み)

申込み受付：8月下旬より開始予定

東京、四国、関西、北海道とくて、東海です！

テーマは「地域の仲間と踏み出そう！～テストの改善！最初の一步～」

です！！基調講演は電気通信大学の西先生による「テストの改善、テストによる改善」です！！8月下旬より、申込み開始ということなので、これはWebを要チェックです！！

【イベント】ソフトウェア品質保証技術実践セミナー

(第一回)

開催日：2009年10月14日(水)

場所：日科技連・東高円寺ビル

参加費：一般：28,350円(税込み)、会員：23,100円(税込み)

申込み受付：現在、申込み受付中

新規にセミナーが開催されるようです！

ソフトウェア品質保証の要素、技術について体系的に学ぶことができます。セミナーの特徴は「ソフトウェア品質保証のマネジメントの仕組みや仕掛けを習得することが出来る」「体系的なSQAの方法、現在のSQAの生立ち、さらにSQAの体系的・実践的な手法を学ぶことができる」です。

講師の方は、NARAコンサルティング代表の奈良隆正さんです。

【イベント】コードレビューオンラインハンズオン(二

次募集)

WACATE-Magazine Vol.8のSoftware Test Topicsで「二次募集があるかも～」ということで、お伝えしましたコードレビューオンラインハンズオンですが、現在、二次募集を行っています！！

二次募集の締切りについては、現時点では設けてないようです。

【資格試験】IT 検証技術者認定試験(知識試験 2009

秋期)

開催日：2009年10月25日(日)

開催会場：東京、大阪、名古屋、札幌

試験料：エントリーレベル1、エントリーレベル2：10,500円(税込み)、ミドルレベル3、ミドルレベル4：15,750円(税込み)

申込み受付：2009年8月19日(水)～9月29日(火)

別名「IVEC知識試験」です。

エントリーレベル1と2、ミドルレベル3、4とレベル別で4種類に分かれています。

試験時間は、エントリーレベル1と2が10:00～11:00、ミドルレベルが13:30～15:00となっていますので、エントリーレベルとミドルレベルの両方を受けることができますねえ。

エントリーレベルのシラバス(バージョン1.0.2)、ミドルレベルのシラバス(バージョン1.0.1)ともにWebページからPDFをダウンロードできます！

【資格試験】第3回 初級ソフトウェア品質技術者

資格試験

開催日：2008年11月28日(土)

開催会場：東京、大阪、愛知

試験料：10,500円(税込み)

申込み受付：2009年9月25日(金)募集開始予定

申込み開始が約一か月後で、実際に試験日は11月の終わりごろということで、このちょっと早いかなあ～という感じですが、情報を載せちゃいます～。

シラバスと参考書籍(主参考図書、副参考図書)については、Webページに掲載されています。

シラバス(バージョン1.0)はPDFでダウンロードできます！

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とかOFF会とか開催するんだけど掲載してくれない？」といったものでもOKです。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(_ _)m

池田暁の

ミュージカルに恋して。

【第九幕】—プログラムも随分増えました—

♪映画のプログラムは買う派です

昔は映画館に行くと、それがどんなにつまらない映画であったとしても**プログラム（パンフレット）は買うようにしていました。**まあなんといいですか、記念みたいなものですね。一番良く足を運んでいたのは大学生の頃だったでしょうか。一週間に一本は観にいました。自宅から徒歩5分が映画館で、21時以降は1000円だったのでお得だったのですよね。なので、とりあえず公開されたものは観にいくみたいな感じ。

気がついてみれば部屋の棚はプログラムだらけになってしまって、置き場に困る始末。結局引っ越すときに全部処分してしまいました。今考えるとすごくもったいない気がしますが、引っ越し先のキャパシティの問題もありましたしょうがなかったのです。そして、引っ越した先では近くに映画館はなく足が遠のき、映画のパンフレット収集癖も収まることになります。



♪舞台のプログラムも買う派です

そして時は流れ観劇にはまってしまった私ですが、映画のときと同じようにプログラムは買うようにしています。昨年から足を運んだ演目数は結構な数になってきますから、気がつけば棚をひとつ占領するくらいまでになってしまいました。正確に数えたわけではないのですが、昨年から見た演目数は50を軽々と超えていますから、きっと最低でも50冊はあるはず。同じ演目でも上演される劇場が違えばそれぞれに買いますし、長期公演のもののように途中でその年の舞台写真が掲載された新版が出ればそれも買ってしまいます。また、実際に劇場に足を運んではいけないものの、好きな俳優さんが出ていた演目のプログラムを中古で入手したりして、どんどんと増えました。ですから、**この2年間ほどで100冊ほどのプログラムを買ったことになります。**



昨年観た「エリザベート」や「ミス・サイゴン」も複数の劇場でそれぞれ買ってますし、今年の「ダンス・オブ・ヴァンパイア」も**2バージョン買っています。**どこで買っても内容同じでしょと思われるかもしれませんが、微妙に写真が変わったりしてるんですよね。あと、追加プログラムとかもありますね。舞台写真の追加が主だったりしますが、やはりファンとしてはそこはコンプリートしたくもなるわけで、気がつけば同じ演目の微妙に異なったバージョンを沢山買うことになってしまいます。でも、あとでそれを眺めると「ああ沢山通ったなあ」とちょっと感慨深くもなってみて、やめられないです。

♪musicalのプログラムは結構ちゃんとした読み物

映画のプログラムの感覚だと、内容はちょっとしたあらすじとキャストの紹介、それから監督やスタッフのインタビューといったところですが、ミュージカルというか舞台系のプログラムはそうでないことが多いです。特に実在の人物や出来事をテーマとしたものは、その歴史に関して解説がされていることが多く**いい勉強になります。**しかもカラーなんですよね。だから歴史の読み物と思うと千数百円という値段は結構お得だったりします。

こういった面からもやめられないわけですが、ここで参考文献に挙げられている本も気がつけば買ってみたい、そもそも月間ミュージカルやシアターガイドなんかも買っているの、ミュージカル関係ということになると、結構な金額を読み物につぎ込んでいます。ますます棚が必要になってくるわけです。

♪2009年8月の観劇記♪

今月もなんだかんだでバタバタしてて、3回しか劇場に足を運ばませんでした。(涙)

♪「ダンス・オブ・ヴァンパイア」(帝国劇場)

8/20(木) マチネ、1 最前列下手側で観劇。今回で通算3回目の観劇となった。

今回はサラ=大塚ちひろ、アルフレート=浦井健二。

演出などについては先月感想を書いているので、ここでは初見となる浦井について。

浦井のアルフレートは泉見に比較すると喜劇的な色合いは多少薄いが、素朴さというか気弱さが強いように感じた。であるから、状況に流される様がより面白い。サラからスポンジをもらうシーンでの「スポンジ、サイコー」の棒読みっぷりはツポに入ってしまった。アルフレートはどちらもそれぞれの色が出ていいですね。そうそう、やはりこの演目の最大の楽しみは二幕のヘルベルト=吉野圭吾だと思う。入浴シーンでのTバック姿は出落ちというか、一度見てしまうと一幕最後に登場した際にも条件反射で笑ってしまう。涙出るくらいに笑った人も多いはず。

と、存分に楽しませてもらったわけだが、ただしこの回は山口の歌唱がいつもに比べるといまいつで、それが唯一残念だった。

この日が私的楽だったのだがサラ=知念里奈の回を観劇できず、それが心残りである。ただ、どうせまた再演されるであろうから、その時を楽しみにしたいと思う。

♪「天翔ける風に」(東京芸術劇場中ホール)

8/29(土) ソワレ、S席1階N上手、前楽を観劇。演出は謝珠栄、野田秀樹の「贖作・罪と罰」をミュージカル化したもので再演となる。

野田秀樹作というのも初めてで、TSミュージカルファンデーションというのも初めてであったが、感想は一言「濃い演目であった」である。舞台上に漂う密度感というか息苦しさというか、太い情報や感情が支配する演出に、ぐっと引きこまれてしまった。元来苦悩とか挫折というキーワードが好きなのに、脚本はもとより埃臭い雰囲気がとても心地よい。直感で「この演目は観なきやいけない」と思い、時間を作って足を運んだのだが、**期待を裏切らない出来であり大満足であった**。序盤から息もつかせない展開(まあ拍手を入れるタイミングが設けられていないので、そうなるのも当然だが)で、幕が下りるまで集中していたため、幕間の疲労感はいつものより大きかったように思う。しかし、比較的重い内容でありながら飽きさせない演出は見事というしかない。特に二幕開始は見事で、**収束し回収される伏線に濃い人間ドラマ、そしてスピード感**、手に汗握るとはこのことであろう。

しかし、やはり、俳優陣の好演があってこそこの演出である。特に主役となる香寿たつきはほぼ最初から最後まで出すばかりであるにも関わらず、疲れも感じさせない演技と歌唱で圧巻。自分の信念と理想、そして乗り越えてしまった苦悩、犯した罪に対する恐怖と狂気。さまざまな感情にめくるめく支配される様を演じるのは苦勞があっただろう。もちろん山崎銀之丞、戸井勝海、今拓哉、阿部裕、平澤智、剣持たまき、福麻むつ美といった他の俳優も好演であった。よくこんなうまい人を集めたものだと思う。個人的に一度見てみたかった剣持たまきも見ることができてよかった。舞台上立つと幼く見えますね。衣裳よく似合っていた。

以上、ベタ褒めであるが、硬派な演目が好きな人には強くお勧めしたい。再演を期待する。



♪2009年9月のキニナル演目♪

9月のキニナル演目は「ジェーン・エア」

★ジェーン・エア

<http://je-musical.com/>

日生劇場、2009/09/02(水) ~ 2009/09/29(水)

出演: 松たか子、橋本さとし、幸田浩子、寿ひずる、旺なつき、伊東弘美、山崎直子、小西遼生ほか

演出のジョン・ケアードが大好きなので、いやがおうにも期待が高まります。それから先日結婚が発表された橋本さとしさんを見られるのが楽しみ。彼を見るのはミス・サイゴン以来なので随分久しぶりの感じがします。松たか子は初主演なので、彼女は一度しか見たことがないので、実際にどういう演技を見せてくれるか楽しみです。プリンシパルはうまい人がそろっているので、安心して観劇できそうですね。2回くらいは見に行きたいと考えています。

♪今月の一枚♪

8月の1枚は「The Wedding Singer」です。

この演目は映画版のほか2008年の2月に東宝で(帝国劇場、主演: 井上芳夫)として上演されているのでご存知の方も多いのではないかと思えます。

楽曲ですが、80年代にヒットした名曲をモチーフとしてあり、流れる曲のほとんどはどこかで聞いたような曲になっています。ですから、なんだか懐かしさを感じます。また、聞きなれた80年代サウンドに安心感も持ちます。

どの曲も捨てがたい魅力があるのですが、特に Saturday in the city は聞きごたえがあって特に好きです。実にモチーフを生かしながらも実にミュージカルらしい曲に仕上がっています。

ミュージカルコメディですから暗い曲もありませんし、BGM用途としてはうってつけの一枚だと思います。Amazonでも購入できますから、興味がある方は是非。

♪終わりに♪

9月は橋本さとしの「ジェーン・エア」を観劇予定。それから8月に観劇できなかった「ブラッド・ブラザーズ」。時間が作れば宝塚も見に行きたい。そういえば、アイーダはチケットを手配していない。うーん、どうしようか。

☆コヤマンの☆ 補給戦線異状なし!

本コーナーはテスト業界という
知的戦場で戦うテストエンジニアたちの
糖質補給等を暑苦しく支える
漢(おとこ)たちの物語である!

Mission-3 : 熱いハートと溶ける熱さに酔いしれろ!

人物紹介

新兵: 元気ハツラツ×やる気ムンムンの新人。
先輩は神だと思っているちょっぴり残念な子。たぶん 19 歳。

軍曹: 上には弱く下には滅法強いタイプのおっちゃん。
33 歳窓際体育会系。精神年齢は 14 歳。

■ご無沙汰してます。

新兵: ぐんそおおおおおおおおおおおつつつつ!

軍曹: じゃかあしいいいいッ!!!! (パキッ)

新兵: ぶべらっ…(キラリと光る涙)

軍曹: なんだ? この蒸し暑いのに暑苦しい。

新兵: しゅ、しゅびばせんっ(すみません)! 久々に出番があつたものですからつい…

軍曹: うむ。確かに久しぶりだな。まあ正直なところ夏の祭典の準備でそれどころではなかったのだ。

新兵: ええっ!? まさか…ぐ、軍曹もコ、コミケに行っていたのですかあ???

軍曹: うむ。一年に2度の日本を代表する大きな祭りだからな。常に3日間常駐だ。日本の常識である。(キリッ)

新兵: なるほど…軍曹もかなり病んでおられ…

軍曹: やかましいっ! (パキッ)

新兵: ぐふっ…(キラリと光る涙)

軍曹: 新兵、そういう貴様も行ったような口ぶりではないか。

新兵: は、はい! まあ…

軍曹: んー? どーせ貴様のことだ、3日目だけだろう?

新兵: は、はい! まあ、3日目だけといえはそうなのですが…

軍曹: ん? 戦利品は沢山買ったのか? んー?

新兵: いえ! 自分はどちらかというと出展側なので…

軍曹: ぬ、ぬわんだとおー!?

新兵: あれ、言っていませんでしたっけ? @@ 自分、ソフトウェア技術系でサークル出しているんですよ。

軍曹: な、なぬー!?

??: あ、いただいた。しんぱーちゃん。

新兵: あ。伍長ちゃん。

軍曹: んん?? 誰…のわあああつつつ!?

伍長: あら、ぐんそーさん、おはようございます★

軍曹: お、おはようございますですッ! (な、なぜココに我が社のアイドル伍藤 胡蝶(ごとう こちょう 通称: 伍長/上から 85・59・88)さんが?!)

伍長: しんぱーちゃん、こないだのお店すっごく良かったよ♪特に「フォンダンショコラ」! もうあれだけで大満足♪

新兵: もうそれ何回も聞いたよ(笑) 喜んでもらって良かった。また行こうね～。

伍長: うんうん♪行こうね～★

新兵: こないだは、一緒に売り子さんやってもらって本当にありがとう。助かったよ～

伍長: やあん★しんぱーちゃんのためならなんだってやっちゃうよ♪

新兵: 本当に? んじゃあ、次のイベントもよろしく頼むよ～。

伍長: まっかせといて! その代わりに…またいいお店連れてってね☆

新兵: オーケー。また調べておくよ。

伍長: ねえ、ところで今日って…空いてるの…?

新兵: ん? 空いてるけど…どしたの?

伍長: ちょっといいお店見つけたんだけど、一緒に行ってみない? ^^

新兵: へえ、伍長ちゃんの紹介なら行ってみたいなあ～

伍長: んじゃ…あとで待ち合わせね♪

新兵: はいはい。了解。…あ。そろそろ仕事に戻らないと…

伍長: あ。ごつめーん★んじゃあとでね～♪(ふりふり)

新兵: はいばーい。

軍曹: ……………

新兵: ぐ、軍曹、どうしたんですか? ものすんごい複雑な顔してますが…

軍曹: な、なぜ…貴様が我が社のアイドル伍長さん…と…?

新兵: はい! 自分が行くと言っていたら手伝ってくれるというので、お願いをいたしましたっ!

軍曹: そうか……………う…………

新兵: う…?

軍曹: うらやましすぎるうラツツ!! (パキッ)

新兵: うぐはあっ…(キラリと光るなんとか)

■今月のウエボン。「フォンダンショコラ」

「カジュアルダイニングきちり」のフォンダンショコラです。

新キャラ伍長ちゃんの心をとらえたモノですが、コミケ(もうひとつの夏)の打ち上げで食べてきました♪

個人的に超お気に入りなので、オススメですー+



WACATE 2009 夏…その裏側で…

WACATE2009 夏から、2か月が経過して「もう一つの夏」も無事に終わりました。皆さん、いかがお過ごしですか？ WACATE2009 夏で参加者・講師の方々がどっぴり「レビュー」に浸かっていたころ・・・

その裏側で、もう一つの戦いが行われていました。
その全貌を皆さんに、ご報告いたします。



◇序章：2009年夏 ディナーセッションに向けて

5/17(日)の実行委員会にて提案された、「ドッキゅん」プロジェクトに端を発する。当初、メインボーカルのみ決まっておらず、バックダンサーの構成・メンバーは、決まっていなかったのです。

もちろん打合せ参加者は、全面的なバックアップを行うことに賛同していたのですが・・・一抹の不安がありました・・・

5/30(日)の実行委員会で、練習用のビデオをみんなで見てみることになりました。K氏は、この時点でほぼ完璧に振付を覚えていました。更に小一時間もしないうちに、ビデオを見ながら踊っていたB氏もみるみる振付を覚えていったのです。

しかし、スクリーンに映し出された映像を見つ「本当にできるのだろうか？」と筆者自身は不安を感じていました・・・

◇起章：2009夏当日朝・・・事件勃発！！

「・・・今日・・・踊らなくても良いですか・・・」という、衝撃的な一言から、WACATE2009夏の1日目は、始まりました！

それは、3人目のバックダンサーであるS田氏から発せられたものでした。

当日までほとんど練習ができなかったS田氏は、みんなに迷惑がかかるくらいなら自分以外のメンバーだけでやってほしいと、涙ながらに訴えました。

しかしそんな時に、リーダーのY氏から愛の鉄拳が！？

Y氏「誰一人欠けても、WACATEの”LOVE、ドッキゅん！”
じゃない・・・」

S氏「・・・」

Y氏「今からでも良い、少しでも完成度を上げよう！！」

S氏「Yさん！！」

Y氏「Kさんをお呼びで来て！ 最優先事項だ！！」

S氏「俺、やります・・・いや、やらせてください！！」

Y氏「S田ああああ！！」（がっすり、抱き合う二人）

・・・というのは、冗談ですが・・・

ワークショップ担当実行委員のK氏が招集されたのは、数分後でした♪w

そこから、筆者とS氏の集中特訓が始まりました・・・

◇承章：目の前のことだけにとらわれるな！

最初は全体を流して見ながら、踊ってみました・・・

まるで踊れませんでした。。orz

たった5分程度のビデオがいつまでたっても終わっていませんでした。

自己流で進めていた我々は、序盤の数分間の踊りを何度も何度も繰り返し踊っていました。それは、あたかも工程全体が見えずにテスト分析に時間を費やしてしまい、テスト設計・実施に時間が無くなってしまいう新人エンジニアのようでした。

そんな窮状に立たされた我々の前に、K氏が来たことにより、雰囲気はがらりと変わりました。その進め方は、全体を把握させつつ問題になりそうなポイントを的確に指摘し、簡単な指示していったのです。

【K氏の進め方】

①全体を通して踊る

②わからなかったポイント(ステップ)を、抽出
(一般事例をあげつつ難しいステップを指摘)

③難しいステップを踊るための方法を簡単に解説
&実施

◇転章：自分を越えろ！(Over the top!)

K氏の熱血指導の甲斐もあり、徐々に踊れるようになってきた我々でした。中間報告を兼ねて、全体を通して踊り、確認用に携帯でビデオを撮影しました。

しかし我々2人に、厳しい現実が突きつけられるのでした！

携帯の小さな画面ですら、明らかに他のメンバーと比較して踊れていませんでした。

朝までは、何となく前に並んでいれば良いのではないかと考えていた2人でしたが、この時には、「少しでも上手く踊れるようになりたい！」とっていました。

リーダーY氏の努力にも来てくださっている皆さんに楽しんでいただくためにも2人は踊り続けました。

そして、お互いに相手の気になる部分を指摘しあい・切磋琢磨しあう中で、踊りの完成度を一歩また一歩と高めていくのでした。

最終的な完成度に関して、ディナーセッションで皆さんに見ていただいた通りです。



所詮付け焼刃 2 人は、急遽前列で踊ることになり慌てふためいた結果、練習用ビデオを見ながらの状態になってしまいました。

◇結章：考えるな、感じろ! (Don't Think, Feel!)

我々はあることに気が付いた・・・

時間が、短く感じる・・・!?

開始から数時間、最初は永遠に続くと思われた 5 分間のビデオでしたが、振付をほとんど覚えるころには、5 分間は瞬間に過ぎるのでした。

硬い表情で始め、苦痛にすら感じていた踊りでしたが、いつしか笑顔にあふれ爽快感さえ覚えるほどになっていました。



その時、ひとつの考えに至った!

技術・技法(踊り)を知識として知っているだけでは、実践では使えず・苦痛が伴うのでは?

しかしその技術・技法(踊り)を実践して、身につけることにより技能となった場合、技術・技法(踊り)を用いるときには、より実践的で楽しく・有益な時間となるのでは、ないのでしょうか?

独学で技術を修得しようとしても、なかなか実践で使うまでに**修得するのは難しい**のが現実です。そんな時にこそ、**ワークショップ**でより**実践的に議論を重ねて勉強**することにより、**技術・技法が技能に近づく**のではないのでしょうか?



今回の経験を通じて、よりよりワークショップの場を提供できるように、**精進してまいりたい**と考えております。

今後とも、よろしくお願いいたします。



追伸：

WACATE2009 夏では、食って・踊って・好きな話(占い分科会)をして ワークショップにはまったく参加していませんでした。

参加者の皆さん・関係者の皆さん、本当にごめんなさい。。。orz

書いた人：むらかみ

WACATE-Blog出張所

こんにちわ～、今月のブログ担当のうえだです♪
先日、ちょっと東京ビッグサイトに **Software Testing ManiaX** を買いに行ってきましたので、どんな感じだったかを書いちゃおうかなって思います～

■集合～！！

WACATE SNS で、「**Software Testing ManiaX** を買いに行こうツアー」という企画があがりました！

これは、参加しなきゃってことで、参加しました。
当日、朝 8 時にりんかい線の国際展示場前、改札を出たところにある「待ち合わせ場所」で集合！！

参加者は 6 人！！



駅について、人の多さにビックリ、、、、（乗ってきたりんかい線も満員電車でしたが、）

さて、列に並ぶか。

最後尾はどこかなあ～？最後尾はどこかなあ～？えらいとこまで歩くなあ～。。

10 分くらいあるいたとこで、**やっと最後尾を発見！！**

並んだところは、橋の途中あたりっす！！

炎天下の中、10 時の開場まで、雑談したり～、DS やったり～して待ちました。

（いや～かなりすれ違いましたよ）

■入場～！！

10 時になって開場しました。

今まで静止していた列が動き出して、どんどんビックサイトに近づいていきます！！（ワクワク♪）



そして、10 時 30 分くらいにビックサイトの中に入りました！！

中に入れたからって、すんなり歩けるわけもなく、東館へ、ジリジリ進みます。（早く WACATE スペースのところにいけないかなあ～）

ジリジリ進むペースも東館へのコンコースを抜けるまでで、そこから先は比較的普通に歩けるになりました！！

そして、目的の場所「**WACATE スペース (N-45a)**」に到着したのであります！！

■到着～！！

まず、目に飛び込んできたのが、**メイドさん！！！！**

そして、コヤマンさん！！！！

おおお、、メイドさんだ

メイドさんが売り子をしておる

コヤマンさんが、うちわでメイドさんを扇いでおる

そして、

Software Testing ManiaX だ～！！！！

WACATE ネックストラップ だ～！！！！

さっそく、**Software Testing ManiaX** と **ネックストラップ** を購入！！！！

うえだは、自分の分（「読む用」と「保存用」）と会社の人から頼まれていた分を買いました～
なんか感動でしたね！

「ウチらが最初の購入者ですか？」って聞いてみたところ、コヤマンさんから「**開場して 10 分後に買いに来た人いましたよ～**」っていう回答が。

えっ！？ウチらが最初の購入者じゃないの？

ん～、これには正直、ビックリしましたね。。

購入後、ツアーメンバーで記念写真を撮って、個人行動ってことになりました～

14 時にもう一回、WACATE のスペースに集合したのですが、そのときには **WACATE 実行委員会さん** が勢ぞろいでした～！！



書いた人：うえだ

開運

源太郎のソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…

日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである! (笑)

	生まれ年	9月の運勢
一水星	S38/S47/S56/H2	連月の苦勞に引換、 運氣逆轉旺盛 に向いたれば大いに機を逸せず計画をだて直ちに実行に突進すべし、 正に順風に帆を揚ぐるか如く 、又自由の天地に出たる如く運氣大いに立直り目上の引立を得思はぬ、 幸福に接する月なり、奮起一番宝の山に入れ。
二黒土星	S37/S46/S55/H1	天運循環して 幸運期 入り運氣恵まれたる月なり、意外の人の引立もあり、身上発展の端緒を開くに至る、万事進んでよく 新計画は能く考慮して取り掛かれれば幸福に到らん 又家内に思わぬ喜び事あり、結婚・開業・旅行等は吉!
三碧木星	S36/S45/S54/S63	本命星中宮星と、 木剋金殺氣旺盛 の衰運月、兎角横舎から邪魔が入り物事渋滞或は 相語にて結果が不首尾に終る 、又夫婦・親友間に些少の事から行違いを生じ衝突の起ることあり良く理非をわきまえ 何事も感情に走らぬ様、和を旨とすべし。
四緑木星	S35/S44/S53/S62	頗る 衰運暗雲 低迷し鬱陶しい空気に閉ざされる眼前の迷雾を払ひ除きつ 万事一徒一足大事を取り慎重の上にも慎重に進まねば千尋の谷底に陥ちる 一面益ある如く見えても中途から邪魔が入り易い 兎角行違いのため苦情が起り易し何事も自重誠道を歩み神右に頼るべし。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	連月鬱陶しい月が続いたが やっど旭日昇天の運勢が循て来た 。今迄の心勞も一氣に取り返しにつく月なりこの機を逸せず 突進あるのみ に発展する然し 油断すれば思はぬ難来とも限らぬ 家の内外を問ず、よく警戒すべし。 西は暗剣殺万事大凶方につき注意すべし。
六白金星	S33/S42/S51/S60	凶月にあらざれば共事態一向遅々として進まず 、成熟しかかった事も横合から妨げが入り 多少の損害免れず 、勞する割合に効あがらず、我ながら裁決に苦しむ事もある、 何事も軽卒を慎み長上に相談して徐々に進むべし。
七赤金星	S32/S41/S50/S59	俗に言う、 八方塞りと云う衰運 にて、千丈の堤も蟻の一穴より崩れる如く、自巳の力を過大すると 到底まで踏み落さる 、 金銭上の苦情 或は人のための苦勞・家内の不和等、次から次へと生ずる事あり、 些細な事にも常に警戒を要す、特に西は凶神合坐して甚だ凶方なり。
八白土星	S31/S40/S49/S58	運氣平靜を保ち動搖なき月なり 、起業開業成就疑なし、然し濡手で粟の掴み取りの面白味あれども抜け目なく正しき事に義務果たすべきなり、 共同事業は繁栄する見込確実なるも独断的は避くべし 。 乾(北西)は大凶方に就きこの方物事破れる恐れあり。注意せよ。
九紫火星	S30/S39/S48/S57	本命星暗剣殺となり、 甚だ宜しからず 、荒波と闘う小船の如く、辛酸を嘗める月なり、 物事食い違い行違多く 、焦れば焦せる程深泥に足をとられる如く、万事自然の成行にまかせるとより外なし、他人のことには関係せず、 自巳のことのみ に努力すべきなり。

月盤 七赤金星				年盤 九紫火星			
南				南			
暗剣殺				暗剣殺			
東 五黄殺	6	2	4	東	8	4	6
	5	7	9		7	9	2
	1	3	8		3	5	1
西 暗剣殺				西			
北				北			
五黄殺				五黄殺			

◆今月の注目スター(星)

今月の**一水星**は、**運氣上昇中!**

今月の本命星は、七赤金星です。金星と相性の良い水星は今月は、運氣上昇中です。

先月は八白土星・先々月九紫火星だったので、水星の方々は連月いまひとつだったのではないのでしょうか?

年盤の同じ位置にある、三碧木星とも相性が良いので、今年一番の運氣です。

ただし年盤の本命星である九紫火星の影響を受けると、急に燃え上がり・冷めるとか秘密が明るみにでる等の

出来事もおきますので、十分に注意してください。

◆今月の格言

「持てば海路の日和あり」

お知らせ

10月4日(sun)にWACATE-Magazine vol.10 発行します!(たぶん)

次号の特集は「JASST'09 Hokkaido Report!」を予定しています★

来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。

来たれ! 投・稿・戦・士!!!

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。

投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。

特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。

レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などは行いません。

単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。

公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了! の方はWACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。

折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。

楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
- イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- デザート情報(甘いものならなんでも。イカス! やつで。)

などなど、お待ちしております♪

来たれ
次世代の
戦士達よ!!!

WACATE実行委員募集中♪

WACATE
Workshop for Accelerating Capable Testing Engineers

★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

編集後記

いいんちょ★暑い夏も終了。季節の変わり目は健康に注意なのだ…。

ふくいんちょ★最近の記事を書いていないなあ…。次号はレポート書く予定(は未定^^;)。

よえだ★コミケで日焼け…。

あつぱ★今年は冷夏でしたが個人的にはとっても熱かったです!

こやま★Magazine だけでなく、Software Testing ManiaXの感想もお待ちしております+

はらみ★今年の夏は花火を観られないまま……(涙)

あらかみ★暑くて暑い夏も終了、次は暑い冬の準備だあああ!!

★あくづい★

2009/9/9(wed)はっこ

WACATE-Magazine へんしゅよび

✉Magazine@wacate.jp

<http://wacate.jp/Magazine/>